

アフリカ出張・パート1

4月12日から4月20日の日程でアフリカ・カメルーンへ出掛けてきました。一般の方がカメルーンと聞くと、2010年ワールドカップ・サッカー南アフリカ大会の日本対カメルーン戦で1対0で日本の本田選手の活躍で勝利した程度の記憶しかない国です。地球儀を回すと日本から最も遠い地域の一つだと解ると思います。

毎年アメリカ東部に必ず買い付けに出かけているので少し遠いだけだと思って出かけたのですが、正直我々の思いより遥かに遠い国でした。

日本からカメルーンへの直行便がないのは、すぐ解りましたが、北ルート（エールフランス利用）と南ルート（エチオピア航空利用）の二つの選択肢がありました。

今回の出張は小生と工場長の2人で出かけることを当初から決めていましたが、工場長はともかく小生は今年10月に60歳を迎えるので、おんぼろの肉体で果たしてカメルーンへ行けるのかと思ってルートを決めようと考えました。

往復にかかる時間とコストを計算すれば、南ルートに自然と決まりましたが、ここから次のハードルがありました。それは黄熱病のワクチン注射とビザの取得でした。黄熱病の事で小生の主治医の内科の先生に相談しても全く当初は解りませんでした。整形外科の先生に相談したら、小生の治療中にすぐネットを調べて、大阪検疫所に電話しなさいとアドバイスを頂きましたが、ワクチン注射をして頂く為に予約から、注射まで1ヶ月の時間が必要でした。

ワクチン注射をして頂ける病院は大阪市総合医療センターに決まり、ワクチン注射をして頂いた時先生から聞いたカメルーンの国内の衛生状態の情報『衛生状態が劣悪な状態』を少し舐めて聞いていたのかも知れないと日本に帰国してから思っています。

マラリア対策の薬を頂き、毎日薬を処方していたので、マラリアは無事防げましたが、もう一つのアドバイスの完全な実行は難しかったです。歯を洗う時に必ずミネラルウォーターを使うこととシャワーを浴びる時、洗顔時にも口に生水が入らないようにすることでした。洗顔時に口を洗う事にミネラルウォーターを使うことは守れましたが、何故か二日目以降に工場長がお腹を壊しましたし、小生も帰国して2日目にお腹を壊しました。シャワーを浴びている時か、それともそれ以外の時間に生水が体内に入ってしまったのです。



大阪からカメルーンへの南ルートで一番乗換えが少ないルートを選択しました。そのルート往復の時間を下記に書きます。

4月12日18時50分大阪・関西→22時0分香港（キャセイ航空・4時間10分）、4月13日1時50分香港→7時35分アジスアベバ（エチオピア航空・10時間45分）、9時15分アジスアベバ→13時25分ドウアラ・カメルーン（エチオピア航空・6時間10分）合計26時間35分です。

4月19日12時35分ドウアラ→20時45分アジスアベバ（エチオピア航空・6時間10分）22時50分アジスアベバ→4月20日13時35分香港（エチオピア航空・9時間45分）香港16時35分→21時20分関西（キャセイ航空・3時間45分）合計時間24時間45分です。毎年アメリカ出張はエコノミーを利用していましたが、今回はビジネスクラスを利用しました。そのお陰で我々の疲労は最低限度に収まったのかも知れません。

アフリカ出張・パート 2

カメルーンの国の状況をご説明します。人口は2500万人です。開発途上国で、日本人が訪問出来る最低限のインフラしかない国です。民主主義的な政治体勢では有りますが、事実上北朝鮮の政治体制と同じではないかと思えます。1960年は1月1日にフランスから独立しました。独立後58年の時間が経過していますが、過去に2度の大きな内戦があったそうです。そして現在は落ち着いた体制に移項したと現地の方にお聞きしましたが、凄く違和感を感じました。

大統領を変えても、何ら国民が豊かになれないと思う様に教育されているのか、それとも国民に絶望感があるのか解りませんが、小生はどちらも関係していると思えます。

東南アジアのインドネシア・マレーシア諸国とカメルーンを比較すると、何故かヨーロッパのダブルスタンダードがある事を感じました。

ヨーロッパはドイツ・イタリアを除く諸国は戦勝国です。従って賠償を支払する必要は有りませんが、北米にいる黒人達を連れて行ったのはヨーロッパ人です。戦後賠償を払わずともアフリカ諸国の独立後に骨を折る作業は日本並みかそれ以上の政策が必要ではないかと思えます。

日本は第二次世界大戦で負けフィリピン・インドネシア・マレーシアに経済援助等を含め戦後賠償を施してきました。その援助のお陰で現在の経済状況は開発途上国の中でトップグループの経済規模まで国は発展しています。

フィリピン・インドネシア・マレーシア等の東南アジア諸国のホテルとカメルーンのホテルを小生の経験から比較するとカメルーンの三ツ星ホテルに宿泊（2日間・それ以外の宿泊は最低のホテル）してきましたが、最低のサービスでした。シャワー室が漏水していたり、シャワーの水の色が濁っているのは異常ではないですか。

日本人とヨーロッパ人の物の考え方が全く違う。利用出来る資源が有る国カメルーンの海を挟んだ小さな国（赤道ギニア）は飛行機から見ただけですが、国が発展しているのは何故でしょう。アジスアベバ⇔ドウアラ間のエチオピア航空の飛行経路に何故必ず赤道ギニアが経由されているのですか、僅か30分程度の飛行時間の国なのに、不思議に思えました。

現在カメルーンでも沖合いで石油資源が発見されて開発が徐々に進みつつ有りますが、この事実はカメルーン国民の極僅かしか知らないと思えます。

沖合いの石油開発のプラットフォームと海岸は離れすぎています。大統領等の特権階級の富裕層は僅かの金銭を開発している欧米の石油開発

会社・通称メジャーから貰っているだけで、国民全員の大事な資源である石油資源を安売りしているように感じましたが、そうかと言って現在のカメルーン

の国民に石油開発する為の人・物・金は有りません。

現在のカメルーンの失業率は正確な数字は有りませんが、通称50%といわれています。定職についていない証拠は町を見れば直ぐ解りました。食べ物・飲料用水・衛生は最低です。従って昼食を取る場所は有りませんでした。昼食は18日以外は車中でバナナを食べただけです。



カメルーンの国民は家族的な絆を大事にする。熱帯性の果物が豊富なので、最低限度の食べ物が調達出るので、その日暮らしの生活から抜け出せない。それが失業率50%を改善出来ないと感じました。日本が戦争に負けた当時と今のカメルーンを比べた時、食べ物はカメルーンの方が豊かです。なぜカメルーンが東南アジアと比較して独立してからの時間は余り大差がないのにこれほどの差が出来たのかは、日本人と東南アジアの諸国の国民との関係が凄く上手くいった結果だと小生は思います。現在日本企業でカメルーン国内で頑張っている会社は有りません。大手商社を含め撤退しました。現在唯一頑張っているのは豊田通商だけです。それも日本的な方法ではなく欧米的なM&Aを利用した手段です。フランスの商社CFAOを買収して直接日本人がアフリカ諸国に影響力を及ぼすと言う方法より間接的に影響力を及ぼすと考えたのだと思います。さすがトヨタだと思います。

カメルーン国内で公共交通機関はありません。唯一有るのがタクシーです。そのタクシーの90%以上が黄色の左ハンドルのカラーナのです。この車達はアメリカで走っていたイエローキャブではないかと思ひます。車の程度は最低です。ウインカーが無い・ミラーが無い・外観キズだらけ・等は当たり前・交通マナーは世界一最悪ではないかと思ひます。



アフリカ出張・パート3

カメルーンはアフリカ材の主な供給産地では有りますが、正確な情報はヨーロッパ諸国は持っているかも知れませんが、日本人は持っていませんので、ここからの話は小生の50年のキャリアからの数字です。カメルーンのエボロアに有るレバノン企業のCUF社（カメルーン・ユナイテッド・フォレスト社）の工場長に朝挨拶してから開発中の森林に行く許可を頂き向かいました。工場から2時間くらい走ると林道に入りました。林道に入り2時間程度走りました。しかし伐採地の最前線どころか真ん中にも到着しません。我々は危険を感じて途中で戻りました。大体工場からの時間で4時間程度ではなかろうかと思ひます。まだ2~3時間程度奥に伐採地があるそうです。

カメルーンの森林はまだまだ供給能力は有ると現地の方からも聞いていますが、ピークは既に過ぎている感が有ります。奥地に行き過ぎている証拠、製材工場に入っている原木の品質を見ても良質材はもはや枯渇しかけているなど実感しました。



左の写真はウエンジ材です。この程度の原木しかこの製材工場には有りませんでした。

ところで、この写真以外に皆様にお見せするのが有りません。カメルーン国内で扱い高No1の会社SIM社に出かけて来ました。この会社は写真撮影は禁止されてしまったので、ここからは文字だけの説明になります。

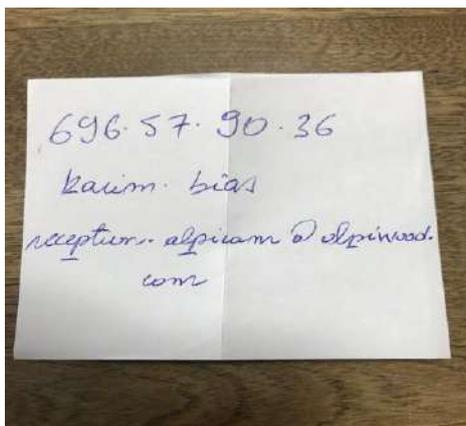


左がS I M社の社長の名刺です。この工場の優秀な点を下記に書きます。

- 1、 集めている原木の鮮度が新しい。
- 2、 集荷している原木の多くが人気樹種です。
- 3、 人工乾燥機械が有る。
- 4、 栈積みが美しい。
- 5、 製材機械が新しい
- 6、 モルダーが入っている。
- 7、 社員教育が徹底されている。

1～7まで会社の優秀性をかきましたが、小生がお付き合いしているアメリカシッパーに負けている点を下記に書きます。

- 1、 原木の皮を剥かず製材している。
- 2、 製材している原木が高品質にも関わらず製品の品質は世界基準ではない。
- 3、 最新鋭のモルダーではなくなぜか古い。
- 4、 集成材を作っていましたが全て表フィンガーです。最高の品質の集成材を作る場合表フィンガーと表バッドの二通りの製品が必要ですが、表フィンガーしか作っていないのが不思議。



カメルーン最高品質の製材品を育む会社はイタリア系企業のアプリカムと言います、この会社の本社及び原木ヤードを訪問しましたが、残念ながらどちらも現場に入る事は出来ませんでした。

左の写真はアプリカム社の本社の受付の方が名刺が無いということでメモに書いて頂きました。この用紙がアプリカム社を訪問した証です。

遠くから原木ヤードを見る事が出来ましたが、上記S I M社に負けない高品質の原木が集っているように見えました。

勿論原木をまじかに見ていないので100%の正しいことではないかも知れませんが、原木の鮮度の優秀性はNo1の噂とおりでと確信しました。

小生達が出掛けていないもう一つのカメルーンの木材企業名はビックウッドと言う会社です。この会社は中国系企業です。中国企業がお金で買収したそうです。

カメルーンの大手材木企業はS I M社・アプリカム社・ビックウッド社・C U F社の4社で大半を占めているそうです。いずれも外国の会社ばかりです。

現場で働いている方達はカメルーン人ですが、ごく一部のカメルーン人のエリートだけが幹部をしていました。しかしほんの極僅かです。

カメルーン国民の50%が失業者だと言う事実。経営者にカメルーン人がいない事実。民主主義といっても独裁的なアフリカ的政治手法。どれを見ても日本人は途惑うことばかりでした。

アフリカ開発会議(英語名:Tokyo International Conference on African Development:アフリカ開発における東京国際会議、通称:TICAD)は、日本が主催する、アフリカの開発をテーマとする国際会議。日本人も深くアフリカに貢献しようとしています。現実と将来ビジョンとは乖離していました。木材の事は来月の服部新聞で見て頂きたいと思います。